

第二條 入學ハ毎年九月ニ於テ之ヲ許ス(但入學試験ハ七月中旬ニ施行ス)

第三條 修業年限ハ二ケ年トシ之ヲ二學級ニ分ツ

第四條 入學試験課目ハ書目、和漢文、作文、算術(全体)、地理(内外)、歴史(内外)、英語(翻譯解書取習字會話文法)トス

第五條 入學志願

藩齊シク文學ヲ獎勵セシテ以テ文學ノ士各地ニ輩出シ或ハ藩主ノ侍講トナリ或ハ塾ヲ開キテ生徒ヲ集ム其最モ名アルモノハ石山大山、中江藤樹、山崎闇齋、安積澹泊、伊藤仁齋、其子東涯、三宅觀蘭、秋生徂徠、太宰春台、山縣周南、熊澤了介等アリ其後新井白石、石室鳩巢、栗山古賀精里、尾藤二州、佐藤一齋ノ輩幕府ノ儒臣又ハ顧問トナリ皆漢學ヲ以テ聞フ又國學和歌ヲ以テ著シキモノハ北林季吟、荷田東滿、賀茂真淵、本居宜長等ナリ俳歌ニハ芭蕉最モ名アリ以テ楨本其角、服部嵐雪、平賀源内、太田南畝、加賀千代女等アリ小説ニハ近松門左、井原西鶴、安藤自笑、山東京傳、京山十返舎一九、曲亭馬琴、爲永春水等ナリ

洋學ハ寶永年間德川家宣ノ時ニ長崎ニ西川如見アリ江戸ニ新井白石アリテ各書ヲ著ムシテ泰西ノ事情ヲ説ケ

者ハ受験料トシテ金一圓ヲ入學願書ニ添テ本校ニ差出スベシ

第六條 授業料ハ一學年金十五圓トシ之ヲ二回ニ分納セシム

第七條 學科ハ和漢文、書法、算術、簿記、經濟、法規、圖書、速記術、英吉利語、實踐、體操トス

東京英語學校

第一條 本校ハ主

リ尋テ將軍吉宗ノ時醫官桂川南筑、儒官青木文藏等蘭人ニ從テ其言語或ハ醫術歷算等ヲ學習シ次テ前野高澤、杉田玄伯、大槻玄澤、桂川甫周等起リテ蘭學ヲ攻究シ著譯スル所アリ是ヨリ世人洋書ヲ讀ムヘキヲ知レリ文化八年始メテ翻譯局ヲ設ケ大槻玄澤、馬場佐十郎、宇田川玄眞等蕃書和解方ニ學ケラル是ヨリ洋學ヲ究ル者益ス多ク坪井信道、箕作院甫、緒方洪菴、松田成卿等輩出ス當時西洋醫學ニハ高良齋、伊東玄朴、伊藤圭介、高野長英アリ天文家ニハ高橋作左衛門アリ兵學家ニハ佐久間象山アリ砲術家ニハ高島秋帆アリテ文學ノ隆盛ナルヲ古來比ナシ

第三十五章 徳川時代ノ宗教

○耶蘇教ヲ禁セシ所以如何 ○天草ノ亂チ聞フ

トノ普通ノ英語
學及ビ數學和漢
文等ノ學科ヲ教
授シ第一高等中
學校ヲ始メ諸官
立學校ニ入ラン
ト欲スル者ヲ養
成スル所トス

第二條 晝間修學
ノ餘暇ナキ者ノ
爲ニ夜學科ヲ設
ケ專ラ英語學ヲ
教授ス

第三條 修業年限
本科ハ初等科三
年高等科一年夜
學科ハ初等科二

北條氏ノ時佛教新派ノ興立以來僧徒ノ勢稍ク強ク戰國ノ時代ニ至リ益々其勢力ヲ振ヘリ而シテ一向宗ノ徒ハ大坂伊勢加賀紀伊ニ盤據シテ頗ブル猖獗ヲ極メタリ織田信長深ク之ヲ惡ミ屢ハ兵ヲ出シテ之ヲ攻ム是ヨリ其勢大ニ衰ヘ徳川氏ニ至リテハ儒教盛ニシテ佛教ヲ信スルモノハ唯中以下ノ人民ノミナリ

○初メ足利氏ノ末ニ葡萄牙人西班牙人九州ニ至リテ始メテ耶蘇教ヲ傳フ教師伴天連最モ名アリ其教ヲ弘ムル豊後地方ヨリ中國及ヒ京畿ニ至リ關東諸國ニ傳ヘ遠ク北陸地方ニ及ブ當時織田信長マタ之ヲ信シ寺ヲ京師ニ建立シ一時盛ニ行ハル然レモ信長其布教ノ速ニシテ人心

年高等科一年特
等科半年トス

第四條 學年ハ四
月八日ニ始リ翌
年四月七日ニ終
ル

第五條 學年ヲ分
テ前後ノ二期ト
ス前期ハ四月八
日ニ始リ十一月
一日ニ終ル後期
ハ十一月一日ニ
始リ翌年四月七
日ニ終ル

第六條 入學志願
者第一號書式ニ
做ヒ(書式略)學

ノ歸依スルヲ甚々篤キヲ見テ竟ニ之ヲ憎ム豊臣氏ニ至リ佛教ト耶蘇教トノ軋機將ニ起ラントスルヲ察シ嚴ニ之ヲ禁ス然レモ尙陰カニ其教ヲ奉スル者アリ

○寛永十四年九州ノ民天主教ヲ奉スルモノ天草四郎時貞ヲ主トシテ天草嶋ニ起リ愚民ヲ煽動シ原城ノ故趾ニ據ル勢甚猖獗ナリ板倉重昌急ニ城ヲ攻ム克クテ死ス松平信綱次テ至リ長圍ヲ築キテ之ヲ困メ遂ニ四面等シク攻メテ城ヲ屠ル是ヨリ後耶蘇教ヲ惡ムヲ益ス甚クシク永ク國禁ト爲ス是ニ於テ耶蘇教全ク亡ビ佛教獨リ行ハレタリ幕府カ耶蘇教ヲ禁セシハ其教徒ガ竟ニ國家ヲ奪ハント欲スルヲ恐レシガ故ナリ

第三十六章 德川氏ノ政治

業履歷書ヲ出シ
學力ノ試験ヲ受
クベシ但初等六
級乙組以下ヲ志
願スル者ハ試業
ヲ要セズ履歷書
ニ據リ直ニ相當
ノ組ニ編入スベ
シ

第七條 第六條ノ
手續ヲ經テ入學
ノ許可ヲ得タル
者ハ第二號書式
ニ倣ヒ在學證書
ヲ出スベシ(書略)

第八條 第七條ノ
手續ヲ經タル者

德川氏ノ政治ハ封建ノ制ニシテ其親屬舊臣ヲ要地ニ封
シテ以テ諸強藩ヲ控制セリ尾張紀伊水戸ノ三藩主皆德
川氏ノ連枝ナリ之ヲ三家ト稱ス又田安一橋清水ノ三連
枝アリ之ヲ三卿ト云フ將軍嗣ナキトキハ三家三卿ヨリ
入テ之ヲ嗣グ前田嶋津伊達細川毛利池田上杉等舊來ノ
大名ヲ外様ト云ヒ井伊本多酒井榊原大久保等ノ類ヲ譜
第ト云ヒ以テ幕府執政ノ吏ニ充ツ又德川舊來ノ臣ニ
テ食祿萬石ニ充ダザルモノヲ旗下ト稱シ江戸ニ在テ德
川氏ヲ護衛ス

〔官制〕大老職ハ庶政ヲ總攬シ老中ハ諸侯ヲ支配シ若年寄
ハ旗下ノ士ヲ總ヘ掌ル寺社奉行町奉行勘定奉行アリ寺
社奉行ハ社寺僧尼巫祝ヲ掌リ町奉行ハ工商市人ノ事ヲ

ハ入學試業ノ成
績ニ依リ相當級
ニ編入スベシ

第九條 保證人ハ
東京府内ニ於テ
一家計ヲ立ル丁
年以上ノ男子ニ
限ル

第十條 保證人轉
居改印或ハ氏名
ヲ變更シタル片
ハ直ニ届出ベシ
又旅行若クハ死
去シタル片ハ更
ニ保證人ヲ定ム
ベシ

第十一條 試業ヲ

掌リ勘定奉行ハ幕府會計ノ事ヲ掌ル各々其所管ノ訴訟
ヲ聽斷セシム又大目附目代アリテ中外ノ事ヲ監察ス幕
府直轄ノ地ニハ郡代々官ヲ置キ京師ニハ所司代町奉行
禁裡附二條在番ヲ置キ大坂駿府ニハ城代定番町奉行ヲ
置キ其他伏見堺奈良山田長崎佐渡函館新潟等ニ奉行ヲ
置キテ土地人民ヲ宰理セシム一旦事アルノ日ニハ其要
害ニ據リ兵ヲ用ユルガ爲ニス而シテ其兵士ハ年期ヲ定
メテ交番セシム奉行以下ハ旗下ノ士ヲ以テ之ニ任シ老
中若年寄城代ハ譜代ノ諸侯ヲ以テ之ニ任ス

〔兵制〕ハ鎌倉政府及足利政府ノ例ニ倣フト雖正前二代ニ
比スレバ頗ブル密ナリ當時諸侯ノ軍ヲ出スハ封地ノ多
少ニ準シテ騎卒歩卒弓銃鎗旗ノ數ヲ定メ率ヲ五百石ニ
一人千石ニ三人三千石二十人ヲ出ス然レモ時トシテ増

分テ學期試業及

ビ通常試業トス

第十二條 學期試

業ハ學期ノ末通

常試業ハ一學期

内二回施行スル

モノトス

第十三條 等級ハ

學期試業ニ依テ

定ムルヲ通例ト

ス

但優等ノ者又ハ

學業不進歩ノ者

ハ教員ノ見込ヲ

以テ臨時昇降セ

シタルトアルベ

シ

減アリ

〔税法〕田賦ノ法ハ水田陸田ヲ分チテ各四等トシ其善惡ニ

從ヒ相差等シテ石盛ヲ爲ス關東諸國奥羽ハ田少ク畑多

ク近畿西南諸國ハ畑少クシテ田多シ故ニ關東諸國ニ

ハ田ニ米ヲ課シ畑ニ金ヲ課シ西南諸國ハ租額ヲ三分シ

テ二分ハ米納トシ一分ヲ金納トス蓋シ北條氏ノ遺法ニ

出ツト云フ其租ヲ定ムルニ檢見定免ノ二法アリ檢見ト

ハ毎年秋期ニ稻ノ熟否ヲ檢シ收穫ノ量ヲ計リ租額ヲ定

ムルヲ云フ然レモ各藩其制ヲ異ニシテ其間厚薄アリト

雖モ概テ三法七民ノ率法ニ歸スト云フ

〔法律〕八建武式目足利氏ノ初メニ作りタルモノニ據リ元

和元年公家法度武家法度ヲ撰定ス寛永中始メテ評定所

ヲ設ケ奉行ヲ置キ訟獄ノ事ヲ掌ラシム寛永以後儒臣ヲ

第十四條 學期試

業毎ニ成績表ヲ

製シ生徒ノ父兄

若クハ保証人ニ

送附スルシ

第十五條 入學金

ハ本科金壹圓夜

學科金五十錢ト

ス

第十六條 授業料

ハ一ヶ月本科金

壹圓夜學科金五

十錢トス(但十

五日以後ニ入學

スルモノハ其月

ニ限り半額ヲ納

メシ)

延テ古律ヲ詳明シ明律ヲ參酌シテ時宜ニ適セシム元文

ニ至リテ大成ス其刑名ハ正刑最輕ハ五十重一百總テ三

等アリ追放(六等)アリ遠島(死罪)斬(火)獄門(磔)鋸挽(屬)四ツ入

墨(關所)非人(手下)トス閨刑ハ逼塞閉門(塾)居改易(切腹)トシ

庶人ノ閨刑ハ呵責(科料)戸(手錠)ナリ僧徒ノ閨刑ハ晒(追

院)搦(ト)シ婦人ノ閨刑ハ前髮(奴)トス

第三十七章 德川氏時代ノ風俗

當時ノ武人ハ常ニ刀ヲ佩テ初メハ亦タ庶民刀ヲ佩ビシ

ガ家光ノ時ヨリ帶刀ヲ禁シテ男子ハ成童ニ至レバ前

額ヲ剃リ髮ヲ結テ戰國以來勇武ノ風盛ナリシヨリ武人

ノ齒ヲ染ムルト全ク廢レタリ中以上ノ婦人ハ始メ下ケ

髮ナリシガ後漸ク止ミテ僅カニ京師ノ官女ニ存シ結髮

第十七條 學業進歩著シク且品行端正コシテ通常試験ノ成績最優等ナル者ニハ賞品ヲ授與シ若シクハ授業料ヲ免スルコトアルベシ

第十八條 本校生徒ニシテ左ノ資格ヲ兼テ備フル者資費生タランコトヲ請願スルハ其情狀ニ依リ學費ノ全額若クハ其一部分ヲ給與スルコトアル

ノ風一般ニ行ハレタリ

(家屋)ハ始メ慶長中天下諸侯ノ邸宅ヲ江戸ニ築クトキ門ノ左右ニ伏舎ヲ建テ或ハ長屋ヲ造リ黑白丹堊ヲ以テ之ヲ塗ル或ハ塗ザルモノ亦アリ始メ公家ノ家ハ檜皮ヲ以テシ庶民ノ家ハ木若シクハ藁ヲ以テセシガ後チ瓦ヲ用ユルモノ多ク又柿蓑杉皮蓑等アリ

(衣服)ハ禮服ニハ素襖直衣狩衣中袴長袴又熨斗目上下等アリ羽織ハ原ト風雨ヲ防グニ用タレ後禮服トナルニ至レリ若服ノ制ハ四月ヨリ五月マテ袷ヲ着シ五月ヨリ八月マテ單衣ヲ用ヒ九月ヨリ綿胎ノ服ト襪トヲ用ヒ三月ニ至ルチ式トス婦人ノ服ハ袖及ヒ裾長ク中以上ノ婦人ハ禮服トシテ襦袢ヲ着ス被衣ハ中以上ノ婦人外出スルキ多ク用ヒシガ後日傘ナルモノ一般ニ行ハル、コ

一品行方正

一學業優等

一後來ニ望ミアル者

一學資ヲ自辨スル能ハザル者

一本校ニ在學スル一學期以上ノ者

第十九條 授業料ハ前月中事務局會計部ニ於テ授業切符ト引換フベシ

第二十條 授業切符ヲ所持セサル

至レリ

(飲食)ハ此時代ヨリ三食トナレリ戰國時代ハ極メテ質素ニシテ粗食ナリシガ後漸ク美食ヲ好ムニ至リ魚肉最モ盛ニ行ハレ調理饗膳善美ヲ盡スニ至レリ清酒マタ此時ニ始マリ醬油菓子等皆此時代ニ至テ精良トナレリ

當時戰世ノ餘習尙ホ存シ人々義ヲ重シ命ヲ輕ズ故ニ士風廉潔ニシテ稱スヘキモノ多ク君父夫兄ノ讐ヲ復スルモノハ幕府諸侯皆之ヲ賞録シ之ヲ召聘シタリ然レモ武人ヲ重ズルノ弊庶民少ク禮ナキモノアレバ之ヲ斬ルモ以テ罪トセス故ニ庶民之レヲ恐ル、一甚シ

者ハ其間停學セシムベシ

第二十一條 生徒

若シ病氣其他不止得事故ニ依リ五日以上欠席スルトキハ保證人ヨリ其理由ヲ届出ベシ、但届出アルモ欠席日數引續キ六ヶ月以外ニ涉ル者ハ之ヲ除名ス

第二十二條 生徒

若シ病氣其他、不得止事故ニ依テ全一ヶ月以上欠

第四編 今代史

自紀元二千五百二十七年 至全二千五百四十九年

第一章 王政復古

慶應三年ノ改革如何

慶應三年徳川慶喜大政ヲ奉還シ然レモ其實權未ダ朝廷ニ歸セズ物情恟々タリ初メ岩倉具視西郷吉之助大久保市藏等ト共ニ幕府ヲ倒シテ天下ノ耳目ヲ一新セント欲ス時ニ慶喜二條城ニ在リ吉之助等慶喜ニ勸メテ大政奉還ノ實ヲ舉ゲシム慶喜群議ヲ憚リテ未ダ決セス朝廷在京ノ公卿諸侯ヲ會シテ改革令ヲ發シ薩長土ノ藩兵ヲ禁闕ヲ守ラシメ長藩ノ罪ヲ赦シテ其入京ヲ許シ三條實美千種有種等七卿ノ官職ヲ復シ攝政關白征夷大將軍及議奏傳奏守護職所司代等ヲ廢シ新ニ總裁議定參與ノ

席スル片ハ届出

ノ者ニ限リ其月

ノ授業料ヲ翌月

十日迄ニ返附ス

第二十三條 無斷

欠席引續全一ヶ

月ニ涉ル者ハ之

ヲ除名ス

第二十四條 退學

スル者ハ保證人

ヨリ其理由ヲ届

出ス

第二十五條 當校

ニ生徒タル者ハ

都左ニ揭タル

心得ヲ銘心腹膺

三職ヲ置キ熾仁親王ヲ總裁トシ嘉彰親王三條實美岩倉具視以下ノ公卿尾張越前安藝土佐等ノ藩主ヲ議定トシ薩藩ノ西郷吉之助大久保市藏長藩ノ桂小五郎土藩ノ後藤象次郎等ヲ舉ゲテ各其職ヲ授ケ慶喜ニ土地官職ヲ納ムルコトヲ命ス慶喜憚ハズ書ヲ朝廷ニ遺シ去リテ大坂城ニ入ル

第二章 伏見鳥羽ノ戰

徳川慶喜ノ大坂城ニ入ルヤ朝廷大ニ恐レ以爲ク慶喜回復チ圖ルト乃チ徳川慶勝松平慶永ヲ遣リ慶喜ヲ議定職ニ任セントス且ツ其入朝ヲ促ス慶喜救ヲ奉ズ明治元年會津藩主松平容保桑名藩主松平定敬等ト交々慶喜ニ説テ曰ク薩長ノ士幼主ヲ挾ンデ私チ圖ル公入朝スル護衛

- シテ須更モ之ヲ 懸念スヘカラサ ルモノトス
- 第十項 智徳ヲ 淬礪シ立身報 國其基ヲ建ツ
- ニセキ事
- 第二項 衣食起 磨美慎ミ身体 健全ヲ計ル
- 第三項 信義ヲ 重シ志操ヲ固 タシ言行一致 期スベキ事
- 第四項 修學ノ 序ヲ履キ切問

ナクノハ事測ラレズト慶喜之ヲ然トシ正月二日會津桑名ノ藩兵三万余人ヲ率ヒ伏見鳥羽ノ二道ヨリ京ニ入ラントス官兵之ヲ砲撃シ幕軍亦之ニ應ス既ニシテ兩軍大ニ伏見鳥羽ニ戰フ幕兵竟ニ敗ル朝廷嘉彰親王ヲ征討大將軍トナシ錦旗節刀ヲ賜フテ往テ征セシム連戰四日幕兵遂ニ潰崩シテ大坂ニ去ル慶喜乃チ容保定敬等ト海ニ航シテ江戸ニ歸ル幕兵皆海陸ヨリ東ニ逃レ去ル官軍大坂城ヲ取ル使ヲ遣ハシテ關西諸藩ノ嚮背ヲ問フ近畿關西ノ諸藩蓋ク歸順ス此役ニ薩長ノ二藩寡兵ヲ以テ幕府ノ大軍ヲ敗ル是ヨリ二藩ノ兵勢益ス顯ル詔シテ慶喜容保等二十七人ノ官爵ヲ褫ヒ熾仁親王ヲ征東大總督ニ拜シ東海北陸東山ノ三道ヨリ下ル總督既ニ駿府ニ至ル慶喜江戸ニ在リ深ク其罪ヲ悟リ屏ヒテ寛永寺ニ居ル其臣

- 近思ヲ務ムベキ事
- 第五項 校則及 時々ノ揭示
- ヲ遵守シ師長ニ恭順スベキ事
- 第六項 校舎ノ 養肅ヲ旨トシ 植養ヲ舉動有 間敷事
- 第七項 校外ニ 在リ時ト雖ドモ常ニ生徒タル体面ヲ汚ス所行有間敷事
- 第二十六條 校則

山岡鐵太郎單身駿府ニ至テ衰去乞フ既ニシテ先鋒品川ニ至ル勝安房大久保一翁等參謀西郷隆盛ニ面シ具サニ慶喜恭順ノ意ヲ陳ベ軍ヲ止ントテ請フ隆盛之ヲ諾シ狀ヲ總督宮ニ啓シ慶喜ニ命シテ江戸城ヲ致サシメ軍艦兵器ヲ收ム幕府旗下ノ士等之ヲ慨シ彰義隊ト稱シテ上野ニ據リ輪王寺ノ宮ヲ奉シテ事ヲ舉ケントス會津庄内ノ諸藩遙カニ之ガ聲援ヲ爲ス勢甚タ猖獗ナリ之ニ於テ軍務官大村益次郎諸軍ヲ部署シ四方ヨリ上野ヲ攻メテ之ヲ敗ル彰義隊ヲ徒法親王ヲ挾ミ圍テ突テ會津ニ去ル

第三章 奥羽箱館ノ戰

○ 是ヨリ先キ慶喜水戸ニ屏居ス朝廷田安龜之助ヲ以テ

○ 奥羽連合ノ始末如何 ○ 箱館戰爭ヲ略記セヨ

ヲ犯ス者若クハ
怠惰不行狀ニシ
テ他ノ生徒ニ妨
害アリト認ムル
者ハ其輕重ニ依
テ訓誨ヲ加ヘ若
クハ退學セシム
第二十七條 本科
初等ノ級以上ノ
學生ニシテ東京
法學院ニ入學セ
ント欲スル者ハ
試験ヲ要セズ
テ該院普通科
兼語科原書科共
ニ一等級ニ入學
スル事ヲ得

宗家ヲ繼カシメ駿河遠江三河ノ地七十萬石ニ封ズ幕府
旗下ノ士慶喜ノ恭順ヲ憚ハザル者各所ニ屯集シ兵ヲ擧
ゲテ官軍ニ抗ス大鳥圭助近藤勇等亦タ脱兵ヲ率ヒテ各
地ニ轉戦シ屢バ官軍ヲ窘シム會津藩陸奥出羽諸藩ト連
合シテ官軍ニ抗ス官軍越後奥羽ノ二道ヨリ進ム總督九
條道孝與羽諸藩ニ命シテ若松城ヲ討ツシム仙台米澤ノ
藩主等諸藩ト會盟シ會藩ノ爲メニ征討ヲ止メント請フ
道孝疑テ聽カス是ニ於テ奥羽十餘藩連合シテ會津ヲ援
ク官軍乃チ白河平潟越後ノ三道ヨリ進ミ一ハ白河ヲ復
シ桐倉ヲ取リ二本松ヲ拔キ一ハ岩城ヲ陷レ相馬ヲ下シ
仙台ニ逼リ一ハ長岡ヲ復シ新潟ヲ取リ新發田ヲ下シ遂
ニ進メテ若松城ヲ攻ム容保城ニ據リ以テ官軍ヲ拒ク城
兵善ク戰フ既ニシテ城中糧食彈藥皆盡ク此時ニ米澤藩

第二十八條 年中
休業日ハ大祭祀
前日春日季休
業ハ四月一日ニ
始メ全七日ニ終
ル夏季休業ハ
八月一日ニ始リ
全三十一日ニ終
ル秋季休業ハ
十月二十五日ニ
始リ全三十一日
ニ終ル冬季休
業ハ十二月二十
一日ニ始リ翌年
一月七日ニ終ル

官軍ニ降り使テ城中ニ遣ハシテ降ヲ勸ム是ニ於テ容保
父子出テ降ル奥羽諸藩亦尋テ降り奥羽悉ク平ク
○此時ニ當テ榎本鎌次郎永井玄番松平太郎荒井郁之助
等軍艦九艘ヲ率ヒ奥羽ニ至リ東北諸藩ヲ援ケント欲シ
安房ヨリ寒風澤ニ入ル時ニ會津仙台皆降リ大鳥圭助土
方歳三等兵ヲ率ヒテ來リ投ス乃チ航シテ箱館ヲ取リ五
稜廓ニ據リ江差福山ヲ攻メテ之ヲ拔キ北海道ヲ畧ス乃
チ書テ朝廷ニ上リ徳川氏ノ胤ヲ戴キテ主トシ北門ノ鎖
鑰ヲラント請フ朝廷以テ暴慢ナリトシ竟ニ征討ノ令ヲ
下シ海陸ヨリ并ヒ進ミ賊軍ヲ討テ江差福山ヲ復シ進ミ
テ矢不來ニ戦ヒ大ニ之ヲ敗ル又箱館灣中ニ戦フ賊軍悉
ク軍艦ヲ失ヒ兵勢大ニ衰フ官軍攻テ函館ヲ取ル之ニ於
テ榎本等五稜廓及千代岡辨天ノ二砦ヲ保ツ官軍書ヲ贈

諸官立學校
日本歷史試
驗例題

第一高等中學

- 神后皇后ノ三韓ヲ征セテ目的ハ何レヲ達スルヲヤ
- 佛敎傳來ノ大略ヲ擧ケヨ
- 藤原氏ノ政權ヲ握ルタル起原並ニ之ヲ失ヒタル顛末ヲ略述セヨ
- 王朝ノ盛時ニ當

テ降ヲ論ス既ニマテ千代岡辨天ノ二皆亦陷リ武揚遂ニ降ル官軍之ヲ東京ニ護送ス後悉ク之ヲ許ス賊ノ一軍室蘭ニ在ルモノ亦降リ是ニ於テ東北悉ク平定シ天下一統ス此年招魂社ヲ東京九段坂上ニ建テ國事ニ死セルモノヲ祭リ又大ニ功ヲ論シ賞ヲ行フ

第四章 東京遷都及廢藩置縣

甲 ○今上天皇五事ノ御誓文ヲ問フ
乙 ○千島樺太交換ノ始末如何

鎮港攘夷ノ說一變シテ尊王討幕ト成リ幕府已ニ大政ヲ奉還シ越前尾張薩長土肥ノ六藩建議シテ開國ノ止ムベカラザルヲ云フ天皇乃チ各國公使ヲ延見シ交通ノ一全ク定ル

- 南朝ノ分レテ順序ヲ述ベヨ
- 足利氏ノ權ヲ兼倉分チタル苦心並ニ其結果如何
- 關國ノ廢大各ノ重要トモノ並ニ其割據地方ヲ示セ
- 鐵砲ハ何レノ時代ニ傳來シ何レノ戰爭ノ頃ヨリ使用

○參與大久保利通議ヲ建テ古制ニ拘泥セズ政令簡易ヲ貴ブベキヲ云フ天皇南殿ニ御シ公卿諸侯ヲ率ヒテ天神地祇ヲ祭リ五事ヲ誓フ曰ク廣ク會議ヲ興シ万機公論ニ決スヘシ曰ク上下心ヲ一ニシ盛ニ經綸ヲ行ハシ曰ク官民一途庶民ニ至ルマテ各々其志ヲ遂ゲ人心ヲ倦マサラシメシトフ要ス曰ク舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ曰ク智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシト始メ大久保利通都ヲ大坂ニ遷サント請フ奥羽平定ズルニ及ビ廷議江戸遷都ノ事ヲ決シ車駕江戸ニ幸ス江戸ヲ改メテ東京ト稱シ皇居ノ地ト定ム始メ桓武天皇平安ニ都セシヨリ一千余年是ニ至テ東ニ遷ル蓋シ東京ハ天下ヲ制スルニ便ナル形要ノ地タルヲ以テナリ

明治二年薩長土肥ノ四藩奏シテ曰ク土地人民ハ私有ス

- 藤原氏ト毛利氏トノ關係如何
- 藤原氏ノ初世ニ至ル原因如何
- 上古ヨリ近時ニ至ル政權ノ移轉ノ順序ヲ略述ス
- 第二高等中學
- 楠正成ノ人トナリヤ如何
- 弘安ノ役トハ何ゾ

ヘカラズ請フ封土ヲ奉還シテ政權ヲ一ニセント諸藩相尋テ之ヲ請フ詔シテ之ヲ聽ス時ニ大小二百七十六藩アリ乃チ藩主ヲ知事ニ任シ現石十分ノ一ヲ賜ヒテ世祿ト爲ス四年各藩知事ヲ東京ニ召シ諭シテ其職ヲ罷メ藩ヲ改メテ縣トナシ東京大坂京都ヲ三府トス後藩知事及ビ卿ヲ華族ニ列シ其臣下ヲ士族トス鎌倉以來封建ノ制ヲ成セシモノ七百年ニシテ始メテ郡縣ノ制ニ復ス是ニ至テ大政朝廷ニ歸シ維新ノ業全ク成ル

○ 初メ幕府ノ時函館奉行ヲ置キテ蝦夷ノ地ヲ治シメ奥羽諸藩交代シテ之ヲ守レリ函館ノ亂平クルニ及ヒ朝廷開拓使ヲ札幌ニ置キ支廳ヲ函館根室ニ置キ全嶋ヲ開拓綏撫セシム名ヲ北海道ト改メ十一國ニ分チ郡村ノ名ヲ立シ後開拓使ヲ止メテ三縣ヲ置キシカ復縣ヲ廢シテ

- 延喜天曆ノ治蹟如何
- 佛教傳來始末ノ大略如何
- 第三高等中學
- 日本帝都ノ變遷ヲ問フ
- 天智天皇ノ治世如何
- 徳川氏三代及八代將軍ノ治蹟ヲ舉ゲヨ
- 臺灣征討ノ顛末ヲ問フ
- 三種ノ神器ノ由來ヲ問フ

道廳ヲ置ク北海道ノ北ニ一大島アリ樺太嶋ト云フ其土人南方ニ居ルモノハ我邦ニ屬シ北方ニ居ルモノハ露國ニ屬ス疆界定ラズ幕府ノ時露國ト約シテ雜居ノ地ト爲ス爾來紛爭絶ルコトナシ明治八年公使榎本武揚ヲ露國ニ遣ハシ千嶋諸島ヲ露國ヨリ得テ樺太ト交換ス

第五章 征韓論及佐賀ノ亂臺灣ノ役

○ 征韓論ノ原因及結局如何 ○ 征韓論ノ破裂如何 ○ 臺灣征討ノ顛末ヲ問フ

○ 徳川幕府ノ時朝鮮常ニ好ヲ通シ將軍ノ職ヲ襲ク毎ニ必ズ使者ヲ來聘セシメテ之ヲ賀ス近年佛國ト事アリテヨリ其來通久シク絶ニ維新ノ後朝廷政權ノ皇室ニ歸セルコトヲ告ゲ舊好ヲ修メントス朝鮮之ニ答フル頗アル無禮ナリ參議西郷隆盛江藤新平副島種臣後藤象次郎板垣

- 聖德太子ノ行爲ニ就テ學ビタル事ヲ記セ
- 何天皇始メテ奈良ニ都シ何世何年間ヲ奈良ノ朝ト云フヤ
- 古事記ハ誰レノ撰ビシモノゾ
- 今上天皇五事ノ御誓文ヲ問フ
- 將軍綱吉ノ代著シキ出來事ヲ學ゲヨ
- 秀吉聚樂ノ盟ヲ問フ
- 家康ノ耶蘇教ヲ

退助征韓ノ師ヲ起サントス民間血氣ノ盡マタ多ク之ヲ贊ス議略ヲ決ス會々右大臣岩倉具視大久保利通木戸孝允伊藤博文歐米ニ使シテ歸リ痛ク之ヲ駭ス隆盛議院ハザルヲ以テ職ヲ辭シ郷ニ歸ル是ニ於テ薩土ノ士多ク官ヲ辭シテ去ル物情恟々リ征韓論破レテヨリ佐賀萩ノ亂トナリ竟ニ鹿兒島ノ大亂ト爲リテ始メテ止ム

○時ニ佐賀ニ征韓憂國ノ二黨アリ江藤新平島義勇等之ヲ煽シテ亂ヲ作ス其徒二千五百人縣廳ヲ襲テ之ヲ取り勢甚ク猖獗ナリ朝廷大久保利通ヲ遣シテ之ヲ鎮撫セシム尋テ嘉仁親王ヲ征討總督トシ山形有朋ヲ參軍トシ往テ賊ヲ平ゲシム未タ至ラス官軍賊ヲ討テ之ヲ破リ新平義勇ヲ誅ス亂平シ

(三) 是ヨリ先キ我小田縣琉球等ノ民台灣生蕃ノ地ニ漂着シ

臺灣事件ニ關シテ大久保利通支那ノ判談ノ圖



征韓論及佐賀ノ亂臺灣ノ役

二〇七

嚴禁シタル所以及其處置如何

第四高等中學

○儒學傳來ノ始末ヲ叙ベヨ

○平氏滅ビ源氏興ル所以ハ如何

○北條泰時ノ善政ヲ叙セヨ

○應仁ノ亂原ヲ示セ

○徳川氏ノ初メ文學ヲ振起テ示セ

第五高等中學

○國司トハ何ゾ

土人ノ爲メニ殺サル是ニ於テ朝廷陸軍中將西郷從道ヲ都督トシ兵三千六百ヲ率ヒテ台灣ヲ討タシム台灣ハ支那ノ南海ニ在リ其西半ハ支那ニ屬シ東半ハ蕃人之ニ居リテ清國ノ命ニ從ハズ蕃民我軍ノ至ルニ及ビ多ク風ヲ望ソテ降ル獨リ牡丹蕃下ラズ乃チ兵ヲ進メテ酋長ヲ斬リ蕃族悉ク服ス清國之ヲ聞キ我軍ノ擅伐ヲ詰ル乃チ内務卿大久保利通ヲ以テ辨理大臣トシ清國ニ遣ハシ朝鮮ハ清國ノ所屬ニアラザルヲ論ス清國總理衙門李鴻章左右ニ托シテ依違決セス事殆ント危シ英國公使支那ニ勸メ竟ニ償金五十萬ヲ出シテ我ニ謝セシム和議乃チ成ル征台ノ諸軍凱旋ス

○明治九年我軍艦朝鮮ニ航シ江華灣ヲ測量ス韓人之ヲ砲撃ス朝廷參議黒田清隆ヲ朝鮮ニ遣ハシ其罪ヲ責ム朝

○北條泰時ノ重大ナル事業ヲ舉示セ

○應仁ノ亂トハ何ゾ

○崇神天皇ノ御世ノ紀元後大約幾年ヲ叙セ

○若シモ當世中ニ於テ大伴事ヲ認ムルモノアラザル之ヲ舉示シヨ

高等商業學校

○藤原秋通ガ春日ノ神威今日盡キタリト言ヒシ次第ヲ問フ

○藤原秋通ガ春日ノ神威今日盡キタリト言ヒシ次第ヲ問フ

○藤原秋通ガ春日ノ神威今日盡キタリト言ヒシ次第ヲ問フ

○藤原秋通ガ春日ノ神威今日盡キタリト言ヒシ次第ヲ問フ

鮮其失ヲ謝シ更ニ隣交ヲ修シ其年熊本ニ神慮運テ暴徒起リ鎮臺ヲ襲ヒ縣廳ヲ侵テ臺兵討テ之ヲ破リ暴徒或ハ自殺セシ或ハ捕ヲ就ク是レヨリ先山白ノ人前原一誠新政ヲ喜ハズ密カニ其機ヲ窺フ神風運テ亂起ル及ヒ其黨與平謙輔等ノ亂ヲ起ス少將三浦權模之ヲ討ツ一誠等皆逃レ尋テ斬ニ處ス

第六章 西南ノ役

明治十年二月西郷隆盛反ス初メ隆盛維新ノ際功最モ多キヲ以テ陸軍大將ニ任ズ會々征韓ノ議合ハサルニ及ビ桐野利秋篠原國幹ト國ニ歸リ俱ニ私學校ヲ立テ壯士ヲ養フ私學校ノ徒隆盛ヲ要シ桐野利秋篠原國幹等ト君側ヲ清ムルヲ以テ名トシテ兵ヲ舉グ熊本佐土原大分等ノ

- 兵權ノ鎌倉ニ歸セシ原因ヲ問フ
- 川中島戰鬪ノ原因ヲ問フ
- 源賴朝捕ハレタルキ何ニ因テ死テ免レシヤ
- 保元ノ亂ノ原因ヲ問フ
- 大田義隆ハ誰ノ爲ニ殺セラレシヤ
- 南北兩朝トハ何ツ
- 武田勝頼ノ末路如何
- 武田上杉講和ノ次第如何

士多クニ應ス進メテ熊本城ヲ圍ム司令長官谷干城能ク守ル會々天皇西京ニ幸ス乃チ隆盛以下ノ官爵ヲ削リ熾仁親王征討總督ト爲シ陸軍卿山縣有明中將黒田清隆海軍大輔河村純義ヲ參軍ト爲シ之ヲ討クシム賊兵ヲ分チテ山鹿原田原坂吉次越ノ險ヲ阨ス官軍之ト戰ヒ篠原國幹ヲ殲ス別軍海路ヨリ八代ニ至リ宇土ニ進ム時ニ熊本ノ圍ミ尙ホ解ケズ城兵頗ブル苦戰ス少佐奥保鞏一隊ヲ率ヒ圍ミヲ潰シテ城ヲ出テ宇土ノ官軍ニ達ス官軍始メテ城中ノ糧食殆ント殫ルヲ知リ遂ニ進テ賊ヲ破リ熊本城ニ達ス圍始メテ解ケ賊兵走ル官軍各所ニ轉戰シテ賊兵ヲ追フ賊兵日ニ盛シ九月一日賊兵長驅シテ鹿兒島ニ入り城山ニ據ル官軍之ヲ圍ム海陸ノ諸軍來會ス攻撃カスル十二旬餘賊兵兵食殆ント盡ク隆盛利秋等皆死ス

- 本朝何テ戰國ノ世トシ何レノ時チ指テカ
- 織田信長ノ始メテ京師ニ入ルヤ先ツ如何ナル所ニ所置テ爲セ
- 師範中學校
- 我國建國ノ体海外萬國ト異ナル所以ハ何ツ
- 我國上古以來政權轉移ノ沿革ヲ問フ
- 三韓唐及西洋交通ノ我國ニ與ヘタ

隆盛兵ヲ起シテ八閱月是ニ至テ始メテ平ク此役ニ官軍ノ死スル者六千二百餘人軍費一歳ノ收額ニ過ク征韓論ノ破レテヨリ不逞ノ徒往々亂ヲ伴フモノ西南ノ亂平キテヨリ悉ク懾服シ政府ノ威權彌ヨリ強盛ナルニ至リ

第七章 朝鮮ノ變

明治十五年朝鮮暴徒我公使館ヲ襲フ初メ朝鮮王幼ニシテ生父大院君ヲ攝ス王政ヲ爲ス及ヒ我公使花房義實兵制改革ノ策ヲ進ム王乃チ我陸軍士官ヲ聘シ兵士ヲ訓練ス金玉均等ヲシテ我國ノ文物制度ヲ視察セシム國內ノ鎮國ヲ唱フルモノ多ク之ヲ喜ビズ大院君マタ王ノ外戚閔氏ト權ヲ爭フ於是奸徒ヲ煽動ス奸徒王宮ヲ犯シテ權臣ヲ殺シ轉シテ我公使館ヲ圍ム義實館員二十余人

影響如何
 ◎我國封建制度ノ發達並ニ其傾覆如
 ◎我國古來兵外
 ◎我國上古以來文
 ◎陸軍士官及幼年
 ◎武田晴信上杉輝
 ◎勝原大徳

共ニ拒戦ス朝鮮政府之ヲ救ハズ義質等國ヲ衛テ仁川港
 至英艦ヲ投テ其狀ヲ奏ス朝廷義質ヲ兵
 師ヲ率ヒテ京城ニ至リ其罪ヲ問ハシ朝鮮懼レテ兵
 金五十萬圓ヲ償ヒ亂黨ヲ捕ヒ巨魁ヲ嚴罰シテ之ヲ謝ス
 後朝鮮人貧弱ヲ憐シ四十萬圓ヲ還ス
 明治十七年朝鮮亦變テ其時朝鮮ニ派分以テ親和
 黨ト云ヒ一テ事大黨ト云ヒ相軋ス獨立黨ハ我親和
 開進ノ制度ヲ行ハントス事大黨ハ清國ニ依頼シテ舊
 習ヲ守ラントス事大黨ノ暴徒數名起リテ大臣ヲ刺ス我
 公使竹添進一郎國王ヲ請因テ兵ヲ率ヒテ王宮ヲ護衛
 清兵暴徒ヲ援ケテ王宮ヲ攻メ又我公使ヲ襲フ陸軍大
 尉磯林眞三等三十九人之ヲ死ス公使難ク仁川ニ避ケテ
 狀ヲ奏ス朝廷乃チ外務卿井上馨ヲシテ往テ其罪ヲ問フ

◎慶尚南道
 ◎美備學校
 ◎陸軍士官及幼年
 ◎武田晴信上杉輝
 ◎勝原大徳

朝鮮罪ヲ謝シ償金ヲ出シ兇徒ヲ罰使テ遣ハシテ
 來テ謝セシテ尋テ參議伊藤博文ヲ清國ニ遣ハシ朝鮮事
 件ヲ辦理セシメ朝鮮國ヲ獨立國ト定メ兩國之ニ關涉セ
 事ヲ治メテ約ス世ニ之ヲ天津條約ト云フ

第八章 明治ノ政治

◎明治十八年ノ官制ハ如何 ◎租稅法律兵制其
 ◎他ノ諸制度如何

◎維新ノ際大化以來ノ政治ニ則リ兼テ萬國ノ法ヲ折衷
 ◎官職ノ制ヲ設テ爾來世能日々ニ變遷シ政務漸ク繁キ
 ◎從ヒ屢ニ改正シ遂ニ明治十八年ニ大ニ官制ヲ改革シ
 ◎舊來ノ制ヲ全廢シ西洋立憲國ノ政体ニ模倣シテ新制ヲ
 ◎設テ諸般ノ制度大ニ備ハル

内閣ハ天皇ヲ補佐シテ樞機ヲ知ル所ニシテ省ノ長官

○有尾宮氏造其弟
 本何將軍ヲ元皇且
 又皇ヲ建築悉何將
 軍以時才外ヲ記傳
 海軍兵學校
 ◎建元元年新舊義
 廣遺弟施屋義助政
 事坂久不降見島聞
 之遺身告義貞自舟
 坂險固不易下我當
 際四月廿八日揚兵
 無山敵必分衆來攻
 將軍乃分軍爲三
 爲數城以綴敵一道
 巨瀨山南出其不意

以議閣員ヲ組織シ總理大臣ヲ置キテ之ヲ統フ省ハ國政
 ヲ分掌スル所ニテ宮内外務大藏陸軍内務海軍司法文
 部農商務逓信ノ十省アリ其長ヲ大臣ト稱シ入リテ大政
 ニ參シ出テハ其省務ヲ統理ス樞密院ハ内閣ニテ起草セ
 ル諸制ヲ討論スル所ニテ其議員ヲ顧問官ト稱シ其長
 ヲ議長ト稱ス元老院ハ内閣ニテ起草セル立法ノ事ヲ討
 議スル所ニテ其議員ヲ議官ト稱シ其長ヲ議長ト稱ス
 此他宮中ニ内大臣顧問官ヲ置キテ天皇ノ御璽ヲ掌リ顧
 問ニ備ヘ又高等法院大審院以下ノ裁判所ヲ置キ訴訟ノ
 事ヲ掌ラシメ
 府ハ東京西京大坂ノ三所ニテ置キ縣ハ其他ノ各地ニ
 置ク其ニ地方ノ施政ヲ掌トル所ニシテ其長ヲ知事ト稱
 ス道廳ハ北海道ニ限リ之ヲ置ク全道ノ施政ヲ掌ル所ニ

納義助弟坂河舉舟
 坂河義貞 稅約以
 難兵軍期高德夜火
 其地以二百余天
 明土熊田敵果出三
 其地米波山有七道
 高德分衆禦之乃戰
 義貞夜敵繞嶺奄
 擊高德羽斗余陷當
 以之重傷墮馬有二敵
 遂斃其所之高德從
 子利伯範氏松崎範
 家利授狀載以歸創
 其幾死父範長傲之
 曰在昔鎌景政爲

シ其長ヲ長官ト稱ス府縣内ヲ少分シ郡區役所ヲ置ク
 郡區内ニ府縣ノ政ヲ傳施スル所ニシテ其長ヲ郡區長ト
 稱シ戶長役場ハ郡區内ヲ更ラニ小分シテ之ヲ置ク其郡
 内ニ府縣ノ制ヲ傳施スル所ニシテ其長ヲ戶長ト稱ス此
 他警察署アリテ保安ヲ掌ル
 ◎地租ハ幕府ノ時ハ農民ノミニ之ヲ課シ米穀ヲ納メシ
 クシカ新ニ耕地宅地山林原野ノ別ヲ立テ地價ヲ定メ地
 券ヲ附シ地價百分ノ二半ヲ地租ノ定額トス地租ノ外更
 シ酒造稅煙草稅醬油稅菓子稅車稅郵便稅海關稅等ヲ
 課シテ國用ニ供ス
 (法律)ハ佛蘭西ノ制ニ基キ刑法治罪法ヲ定メ舊時ノ濫刑
 ヲ停メテ法律ニ明文ナキモノハ何等ノ所爲ト云ヘトモ
 罰セサルコトス法律ニテ罪トスハキモノヲ分チテ重罪

敵射中其目不拔矢
三日遂射殺傷已者
汝今小傷乃委情若
此何從濟大事高德
乃奮息曰速扶馬出
以決戰範長謂其可
濟矣以餘兵十七騎
突進敵不滿其寡不
戰而退軍遂拔舟
返順此戰焉
◎大永三年左京亮
信思老子大演清康
意仍居安祥小字次
郎三郎幼聰連每見
舊臣語古今成敗戰
國事邊陲將焉以為
難處則其在聞其

輕罪、違警罪ノ三種トス罪ノ種類ニ依テ罰ノ種類ヲ定メ
重罪ニハ死刑、流刑、徒刑、懲役、禁獄アリ、輕罪ニハ禁錮、罰金
アリ、違警罪ニハ拘留、科料アリ
兵制ハ維新前ノ武門武士ノ區別ヲ廢シ國民皆兵タルノ
舊制ニ復シ十七歳以上五十年以下ノ男子ヲ兵籍ニ編入
ス兵式ニアルモノヲ分チテ常備、豫備、後備、國民ノ四種ト
爲シ其常備兵ヲシテ現役ニ服セシム海陸二軍ヲ設ケ全
國ニ六鎮臺三鎮守府及ヒ近衛隊ヲ置キ又要地ニ鎮臺ノ
分營ヲ置ク軍隊ヲ指揮スル官ニ將校、佐官、尉官アリ各大
中小ノ三等ニ分ル
上古ヨリ上下ヲ分チ有功ヲ賞スル爲メニ爵位ヲ設ケテ
アリシガ現今ノ制ハ官吏ノ等級ヲ分チテ勅任、奏任、判任
ノ三種ト爲シ通シテ十七等ニ分シ位ハ六位ヨリ九位ニ

死且戰沒戰痛傷之
嘗嘗食受講時來前
或以其所御枕飲之
酒應應政清康曰人
性等蘇或爲君或爲
臣豈可隔情有隔乎
廣法之貴酒醉
過相謂曰今日之酒
吾輩真與昔時蘇松
平親與據國時度由
亦以據備近夫久保
忠茂曰先拔山中則
國時不承而承及夜
兼取山中親其報降
以國時爲盛河要地
從居之國人稱曰岡
崎公遂徇下西參蒙

至リ各正從アリ總テ十八等トス勳等ハ有功者ヲ賞スル
爲メニ之ヲ設ケ總テ八等ニ分チ其上ニ大勳位ヲ設ケ爵
ハ公、侯、伯、子、男ノ五等アリ又有功ヲ賞シ門閥ヲ表スルガ
爲メニ之ヲ設ケ
舊時ハ議會ナルモノナク大事アレハ重職ヲ會シテ其意
見ヲ達スルムルモノナリシガ維新ノ後泰西ノ制ニ倣ヒ
勳位ノ之ヲ設ケ議會ハ町村會、府縣會、國會等トス
此他民法、商法、訴訟法ノ諸法規ヲ布キ立憲政体ノ基礎ヲ
定マラントス

第九章 明治ノ風俗

維新前後風俗ノ變化ハ實ニ急激ノ變化ニシテ僅カニ二
十年間ニ殆ント舊俗ノ存スルモノ無キニ至レリ

饒五子余姪欲賞忠
 義聞其所欲不答強
 而後答曰願賜城下
 權租岡崎公許之而
 聽其責也忠茂悉料
 亦人以君命除其市
 稅四對商賈聞之爭
 李國帥以是當貴矣
 吾東家商船學校
 赤間關無舟可濟軍
 疲糧乏將士皆思東
 叛範賴以誓請濟軍
 範賴朝答書因戒範
 願曰在軍務殺撫衆
 必慎勿左右其語致
 其危殆乃至進戰慎

（衣服）男子ハ多ク洋服ヲ着シ女子ノ洋服モ亦稍ク行ハル
 男子ハ悉ク散髪トナリ女子ハ束髮漸ク行ハル
 （飲食肉食日ニ盛ニシテ中人以上ハ西洋料理ヲ喫ス又洋
 酒大ニ用ヒラル
 （家屋）官衙學校ハ大概洋風ノ建築ヲ用フ都會ノ地ニハ庶
 民亦多ク之ヲ築ク或ハ和洋折衷シテ造ルモノアリ
 （宗教）ハ舊ニ此スレハ信スルモノ少クシテ大ニ衰フ故ニ
 神佛ノ禮拜亦衰ヘタリ諸般ノ儀式禮法ハ舊典多ク衰廢
 シ新樣ニ遷リ繁ク去リ簡ニ從ヘリ此他學文技藝ヨリ
 言語遊戲嗜好ニ至ルマテ細大トナク固有ノ習慣ヲ廢棄
 シ西洋ノ習俗ハ悉ク之ヲ用ヒントシ改良ノ二字遂ニ常
 套ノ語トサレリ然ルニ洋風ノ善キヲ取ルト同時ニ其弊
 亦モ并セ取ルコト往々之レアリシガ爲メ人心一時舊慣保
 存廢典復興ノ一方ニ向ヘリ而シテ近時少シク其勢ヲ減
 セシガ再ビ國粹保存ノ說行ハルハニ至レリ

勿犯先帝太后願使
 二位尼奉帝而至也
 宗盛恒怯必生得之
 範賴諭曰杵氏給戰
 艦本上氏餽糧食遂
 進濟海諸千葉常胤
 曰吾聞之家兄周防
 通京畿控宰府爲西
 國咽喉吾今欲令智
 勇而有衆者居守焉
 誰可者對曰三浦義
 澄其人也乃命義澄
 固辭不許範賴以諸
 軍濟海二月賴朝所
 給糧舶至之益振與
 原田種直戰于葦屋
 浦大破之得其子賀

第十章 憲法發布
 我邦ノ政治ハ古ヨリ天皇之ヲ主宰シ人臣之ニ參スル
 權ナシ明治維新ノ初メ天皇公卿諸侯ヲ會シ廣ク會議ヲ
 興シ萬機公論ニ決セシト誓フ七年ニ至リ前參議板垣退
 助後藤象次郎等連署シテ西洋ノ政体ニ倣ヒ代議士ヲ全
 國ニ徵シテ法律ヲ議定セシメント建議ス後府縣會町村
 會ヲ開ク十三年ヲ頃ニ至リ政談演說盛ニ行ハレ大
 民參政ノ權ヲ得ノコトヲ希望シ各地競ヒテ開會開設ヲ
 願フ書ヲ太政官ニ上ルモノ相尋ク一時爲メニ騷然タリ
 天皇竟ニ二十三年ヲ期シ國會ヲ開設スルノ詔ヲ下ス爾



二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十

三三〇

三三〇

摩

此
日
本
有
神
聖
之
事
也
其
事
之
大
也
其
事
之
重
也
其
事
之
遠
也
其
事
之
久
也
其
事
之
廣
也
其
事
之
深
也
其
事
之
遠
也
其
事
之
久
也
其
事
之
廣
也
其
事
之
深
也

來諸有志此聖詔ニ遵ヒ憲法草案ヲ制定ス天皇之ヲ樞密院ニ下シテ議定セシメ遂ニ二十二年二月十一日ヲ以テ之ヲ發布シ併セテ皇室典範及議院法衆議院議員撰舉法會計法貴族院令ヲ發布シ立憲政體ノ基礎是ニ於テ定メリ皇室ノ安泰臣民ノ權利義務政府ノ職制帝國議會ノ權限等確然トシテ動ス可ラズ此日憲法發布ノ典終ルヤ天皇躬ヲ觀兵式ヲ青山ニ行ヒ其夜宮中ニ於テ宴ヲ群臣ニ賜フ全國ノ人民皆歡叫宴舞シテ盛典ヲ祝ス蓋シ歐州諸國ノ憲法ハ概チ君ヲ弑シ民ヲ毒シテ上下相剋ミテ而シテ後ニ得ル所ナリ獨リ我國ノミ君臣和樂シ泰平無事ノ日ニ之ヲ得タリ是レ特ニ我國ノ萬國ニ異ナル所以ナリ故ニ外人之ヲ見テ嘆賞セリト云フ嗚呼古ヨリ君子國ト稱セラル、コト蓋シ故アル哉

本
日
之
事

憲法草案

三三二

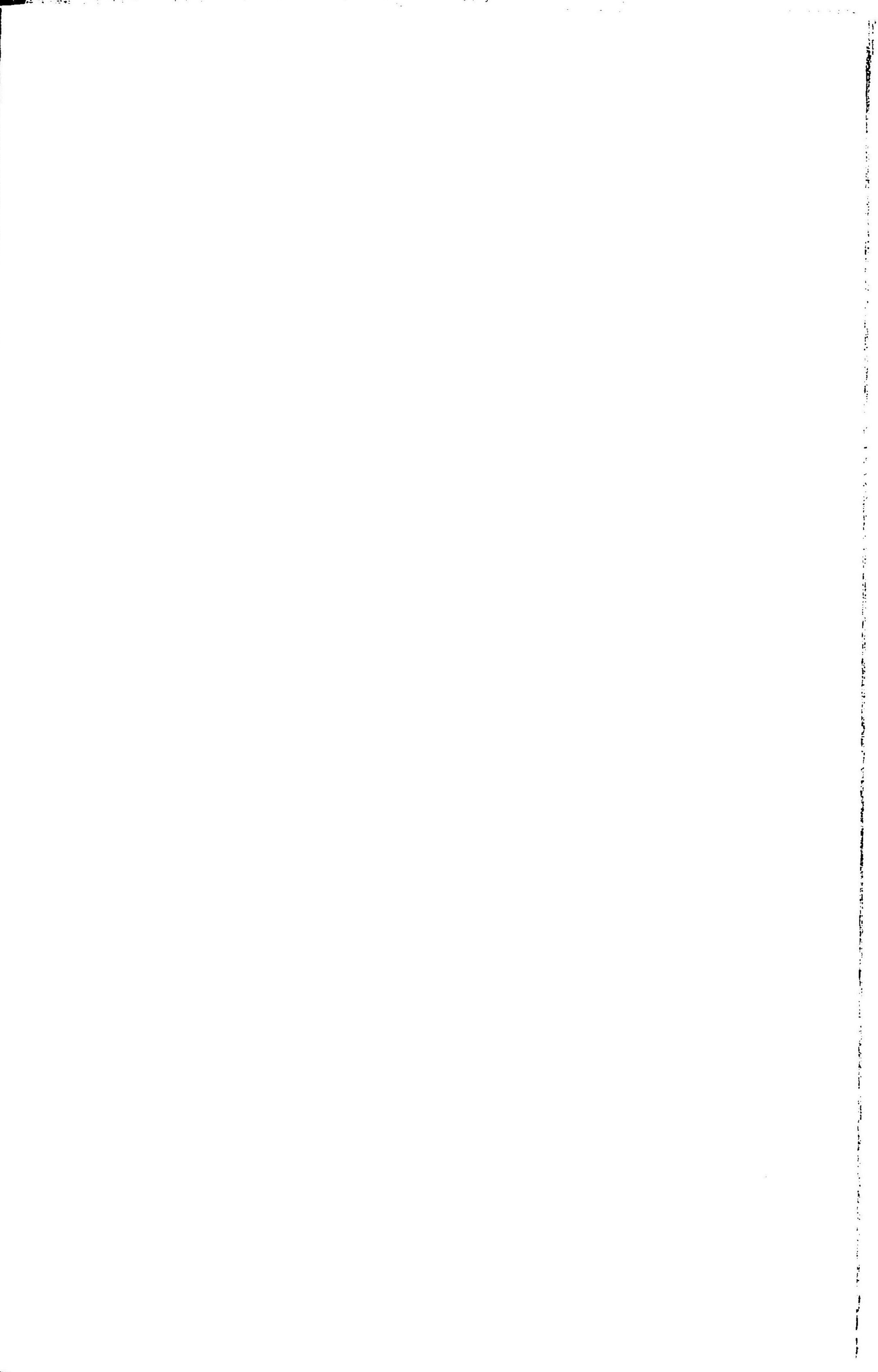
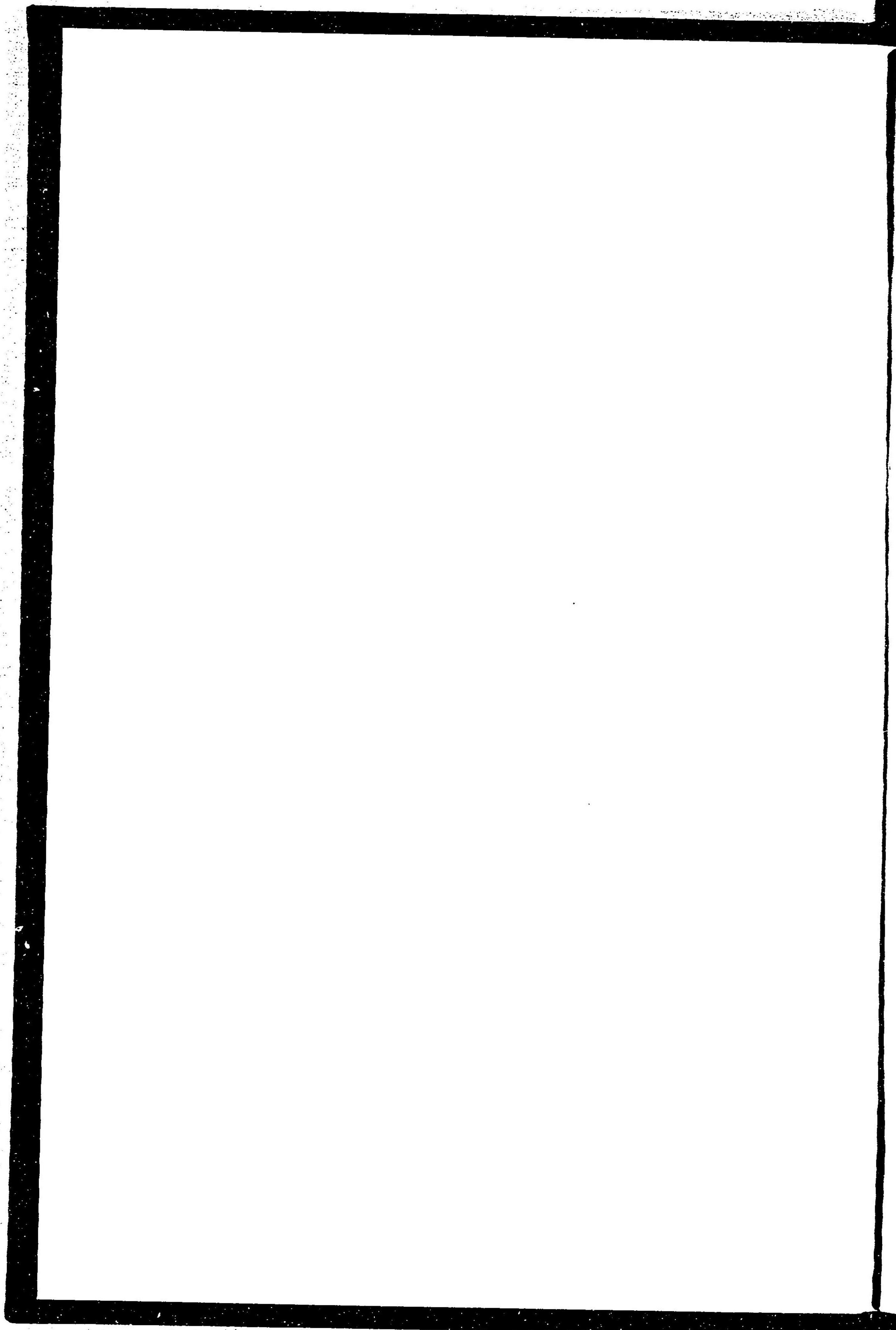
241-100

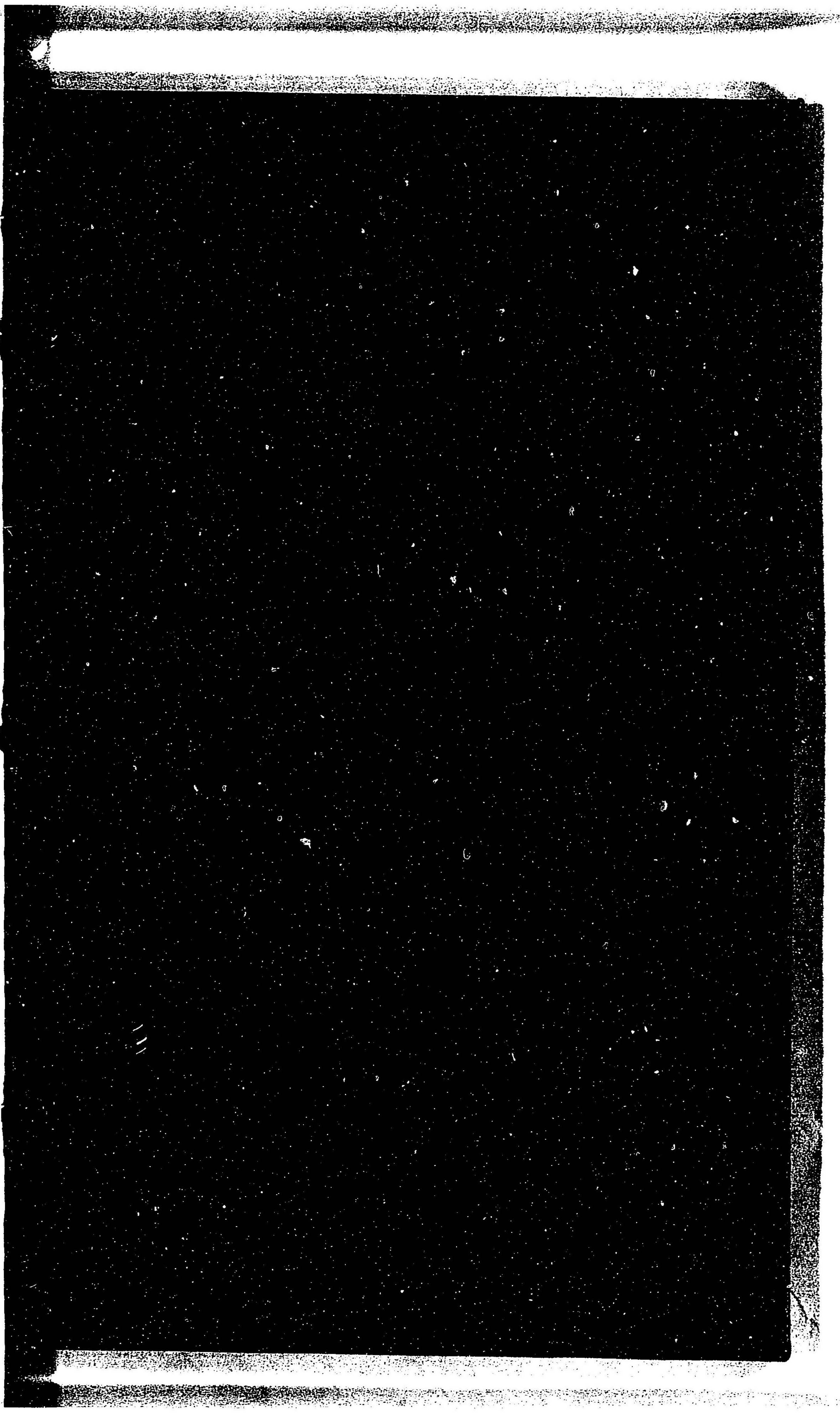
各口政徳著

版
在
登

家
心
七
七

受
用
日
本
小
歴
史
終





特 20

199

049601-000-0

特20-199

日本小歴史(受験応用)

谷口 政徳 / 著

M23

BEM-0302

